

くまびょう

99号

NEWS

くまびょう
NEWS2005年
9月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501代

FAX (096) 325-2519

平成17年度第1回(通算第19回)開放型病院運営協議会開催される



福田稷委員長のご挨拶

と事務局が出席して地域医療研修センター会議室にて開催されました。

まず院長が日頃よりご指導頂いている医師会長はじめ医師会委員の先生方にお礼を述べ、病院建て替えの進捗状況や病院の現状を報告致しました。続いて福田委員長より医療機関の機能分化が進む中で開放型病院は重要な役割を担っており、これからも病診連携に努めるようにとのご挨拶を頂きました。

議事に移り、報告事項として、事務局より、登録医数が本年8月1日現在で1,053名であること、最近の訪

問医師数、訪問回数、共同指導算定実績、「くまびょうニュース」の発行状況、第18回開放型病院連絡会(平成17年2月10日)の参加者数が279名であったこと等が報告されました。

次の協議事項では、第19回開放型病院連絡会の開催について協議され、平成17年9月15日(木)午後6時30分よりくまもと県民交流館パレア10階のパレアホールおよび、7階の鶴屋ホールにて開催することが決定しました。内容は、パレアホールでの総会で福田運営協議会委員長のご挨拶、症例呈示、開放型病院への要望を中心とした「パネルディスカッション」を行い、その後、会場を鶴屋ホールに移して懇親会を行うことをご承認頂きました。多数の先生方に開放型病院連絡会にご参加頂きますようお願い致します。

開放型病院の開設準備の時から、これまでご指導頂いてきました家村先生が参加されない初めての運営協議会となりましたが、家村先生の教えを胸に、さらに病診・病々連携を推進し、地域医療に貢献できるように努めたいと存じます。(副院長 池井 聡)

第19回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のご案内

第19回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が下記の要領で開催される予定です。多数の御参加をお待ち致します。

日時	平成17年9月15日(木) 18時30分～21時
場所	〒860-8554 熊本市手取本町8-9 テトリア熊本ビル くまもと県民交流館パレア TEL 096-355-4300(代)
内容	1. 開放型病院連絡会総会(10階 パレアホール) 1) 症例紹介(紹介症例から) 2) パネルディスカッション 2. 懇親会(7階 鶴屋ホール) 懇親会の会費5,000円は、当日受付で申し受けます。

なお、当日会場にて新規登録医の申請もできます。登録医証の発行をご希望の先生は、会場で写真撮影を実施させていただきます。また、施設見学(MRI、マルチCT、ガンマカメラ、心血管造影室、その他)をご希望される先生は、18時までに病院玄関にお集まり願います。見学終了後、タクシーにて連絡会会場までご案内致します。

【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線390)



機能分化のうねりの中で

特定医療法人 富尾会
桜が丘病院
理事長 堀田 宣之



かつて、村山英一先生の薫陶よろしきを得て、昭和48年から20数年間、国立熊本病院精神神経科の外来診療を週に一度担当させて頂きました。

この30年余、日本の社会も医療も激しく変化しました。

国立熊本病院も国立病院機構熊本医療センターとなり、中身もすっかり変貌致しました。とりわけ、精神障害者に対する職員の方々の意識の変わり様は隔世の感が致します。

いつでも・どんな患者でも引き受けて頂ける国立病院機構熊本医療センターは、地域で精神科医療に携わるものにとって、もはや不可欠の存在です。日々、救命救急を含め地域医療支援機能を高める努力を続けておられる皆様方に、深く感謝申し上げます。

最近はずっかりご無沙汰していますが、いつも登

録医の一人として国立病院機構熊本医療センター精神神経科の変遷ぶりを眺めています。

平成17年5月の熊本県精神病院月報によると、定床50に対し、入院68、退院70、平均病床利用率86.1%、平均在院日数19日、外来患者延数1,386名となっています。これを渡邊健次郎医長以下5人の医師でまかなっておられる。これはもはや、精神科救急病棟です。

因みに、私の桜が丘病院の同月の平均在院日数163日、また熊本県下46精神科病院全体の平均在院日数344日と比べても断然短い。国立病院機構熊本医療センター精神神経科病棟の機能的特殊性は既に明確に定着しています。これほど顕著ではありませんが、県下の精神科病院でも、それぞれに機能分化を目指した動きがじわじわと進んでいます。慢性期治療病棟と急性期治療病棟、混合病棟から専用病棟へ、そして行き着くところは、外来治療と入院治療の機能分化でありましょう。日本ではまだ未分化ですが、今後、地域の中核病院は、救急外来と入院治療に徹する方向に進んでゆくのではないかと思います。

さて、桜が丘病院もこの10年、施設の近代化・機能分化を目指してきました。平成15年11月に開設したうつ病専用病棟（51床）は、精神科急性期治療病棟として、その機能を果たしています。このニーズは高く、このところ予約待ちの状態が続き、さらなる対応が要請されています。うつ病をはじめ精神科急性期治療では、サイマトロンを用いた修正型電気痙攣療法の有効性が広く認識されてきました。つまり、麻酔科専門医の精神科病院への常駐が必要な時代を迎えました。このような新しい動きも出始めています。

国立病院機構熊本医療センターの益々のご発展を期す次第です。

平成17年度第1回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告



去る8月12日（金）、熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が熊本県歯科医師会館会議室で開催されました。

古賀明会長のご挨拶
歯科医師会から古賀会長、藤波副会長、矢毛石専務理事、田中医療管理理事、尾上医療管理委員会会長、当院から宮崎院長、池井副院長、河野副院長、高橋救命救急センター部長、児玉歯科口腔外科医長が出席しました。

宮崎院長、古賀会長の挨拶の後、議事に入りました。まず池井副院長より本年度第1回の開放型病院連絡会の開催についての報告があり、恒例の症例呈示の後に行われる「開放型病院連絡会の利用について」パネルディスカッションに歯科医師会会員の参加をお願い致しました。

次いで、高橋救命救急センター部長より平成17年の歯科救急医療について、症例数は6月までで63症例と前年度1年間の118症例とほぼ同じペースであり、その中で顎骨骨折などの外傷は約半分を占め、紹介症例は20%であったことが報告されました。

最後に、児玉より歯科医師会の御協力での病診連携の指標となる歯科口腔外科への本年度の紹介率が30%の大台を超えて35.2%に達することが出来たことを報告した後、連絡事項として、救急蘇生講座は11月10日（木）に開催すること、障害者歯科医療の現況、来年度より施行される歯科医師臨床研修を当科で受け入れる方向で手続きを行っていることを伝えて閉会となりました。

会を終えて、開放型病院の運営をスムーズに行うには歯科医師会の協力は非常に大切であり、これからも密なる連携の必要性を強く感じました。

（歯科・口腔外科医長 児玉 圀昭）

2005年 診療科紹介(24)

外科



芳賀 克夫

外科一般、消化器外科、内視鏡外科、
内分泌外科、外科感染症
日本外科学会認定医・指導医・専門医、
日本消化器外科学会認定医・指導医・専門医、
日本消化器病学会専門医、
インフェクションコントロールドクター



松崎 法成

外科一般、消化器外科、
栄養管理、内分泌外科、
内視鏡外科
日本外科学会認定医・専門医



吉田 直矢

外科一般、消化器外科、
栄養管理、内分泌外科、
内視鏡外科
日本外科学会認定医・専門医



井田 智

外科一般、救急医療



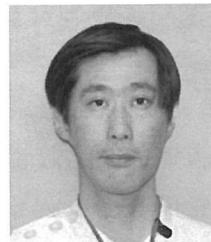
池井 聰

外科一般、消化器外科、肝胆膵、
内視鏡外科、救急医療
日本外科学会認定医・指導医・専門医、
日本消化器外科学会認定医・指導医、
日本消化器病学会専門医、
熊本大学医学部臨床教授、
熊本大学医学部非常勤講師



山下 眞一

外科一般、呼吸器外科、
胸部外科、内分泌外科、
消化器外科、内視鏡外科
日本外科学会認定医・専門医、
日本胸部外科学会認定医、
日本乳癌学会認定医、
呼吸器外科専門医



甲斐 幹男

外科一般、消化器外科、
栄養管理、内分泌外科、
内視鏡外科
日本外科学会認定医・専門医



前田 健晴

外科一般、消化器外科、
栄養管理、内分泌外科、
内視鏡外科
日本外科学会認定医・専門医



辛島 龍一

外科一般、救急医療

診療内容及び実績

外科では、呼吸器、消化器、乳腺内分泌疾患を中心に幅広い分野を診療しています。

中でも「がん」の診療に力を入れて、手術、化学療法、内分泌療法、放射線治療と集学的治療を行っています。特に周術期の管理には定評があり予定手術においてはE-PASS、また緊急手術においてはP-POSSUMを用いてリスク評価を行い予測死亡率よりも良好な成績を収めています。

また、県内では最も古くから腹腔鏡手術を導入しており、症例の蓄積により腹腔鏡手術には定評があ

ります。

平成16年度の外科入院患者数は1,265名、手術件数は677件でした。悪性腫瘍の手術（そのうちの内視鏡手術数）は食道10（8）例、甲状腺13例、呼吸器22（11）例、乳腺51例、胃45（5）例、結腸・直腸64（11）例、肝3例、胆嚢2例、胆管4例、膵7例などでした。

緊急手術は162件で鏡視下で虫垂切除術や十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填術など行っています。このようにがん治療と共に、救急医療に積極的に取り組んでいます。（次ページへ続く）

2005年 診療科紹介(24) 外科 続き

スタッフ

池井聰副院長（昭和45年卒）以下、芳賀克夫（昭和57年卒：国立病院機構九州ブロック医療課長併任）、山下真一（昭和61年卒）、松崎法成（平成元年卒）、甲斐幹男（平成2年卒）、吉田直矢（平成6年卒）、前田健晴（平成7年卒）、井田智（平成14年卒）、辛島龍一（平成15年卒）の9名です。

研究

臨床研究では全国の国立病院機構の53病院で当院が基幹病院となり予定消化器外科手術の技術評価に関する大規模研究を進めています。この他にも厚生労働省の各種のがん研究助成金班の班員として活躍しています。

次年度は早期がんのみならず進行がんに対しても積極的に鏡視下手術に取り組み「がん」患者数の増加と治療の向上を第一目標に躍進を目指します。

日本脳卒中学会認定研修教育病院に認定されました

日本脳卒中学会は脳卒中専門医の育成を目的に、平成17年2月より認定教育施設の認定を開始しました。昨年の10月に、学会から認定応募についての通知を受けましたので、神経内科および脳神経外科合同で申し込みを行いました。審査の結果、本年2月付けで研修教育病院に認定されました。当院では、虚血性および出血性脳卒中患者をそれぞれ神経内科、脳神経外科で加療しており、最近

の年間脳卒中患者数は外来200例、入院400例以上（年間計600例）と認定基準を優に凌いでいます。

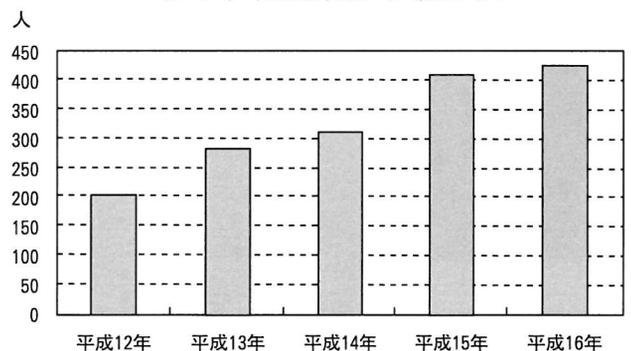
今回の指定を受けて脳神経センターは、神経内科専門医、脳神経外科専門医、脳卒中専門医の育成をめざす教育施設として更に充実することになりました。

脳神経センター 脳神経外科医長 大塚 忠弘
神経内科医長 田北 智裕

認定基準は次の通りです。

- 日本内科学会、日本神経学会、日本脳神経外科学会、日本リハビリテーション医学会いずれかの認定施設であること。
- 脳卒中関連の年間新患数（外来、入院含む）が200例以上で、脳卒中診断・治療に必要な諸設備を有し定期的にカンファランス（症例、CPC、関連学科のセミナーなど）をおこなっていること。
- 3年間の脳卒中診療研修カリキュラムがあること。

脳卒中年間患者数（入院のみ）



ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

最近のトピックス

眼科診療機器の進歩



感覚器センター

眼科医長

青木 浩 則

私が大学に入局した平成元年の眼科外来では細隙灯顕微鏡と眼底検査のための検眼鏡、視力表があれば何とか診療ができていたように思います。近年の眼科領域の診断、治療機器の進歩は非常に早く、高額な種々の機器を駆使して診断・治療を行うというスタイルが一般的になってきているように思います。

今回は、ここ数年頻用されるようになってきた眼科の医療機器のいくつかを取り上げてみたいと思います。まずは以前から眼科では使用されていましたが他科の先生方にはなじみの薄い自動視野計についてです。いくつか種類がありますが国立病院機構熊本医療センターには「ハンフリー視野計」(図1)が導入されています。以前は片眼の検査に30分程度かかっていましたが、解析ソフトの進歩などで最近では7~8分で検査が終わります。検査結果は見えなところが黒い部分として表示されますので患者様への説明も容易です(図2)。さらに定期的に検査を繰り返すことにより経年的な変化も解析可能です。40才以上の17人に1人が罹患しているといわれる緑内障や網膜病変に対する検査はもとより、脳血管障害に伴う視野障害の検査においても有用な器械です。

次に、網膜疾患についてはOCT(光干渉断層計)と呼ばれる機械が使われるようになってきました。これは腹部エコーのように任意の部位の網膜の断層像がまさに組織切片のように表示されます(図3)。糖尿病網膜症による黄斑浮腫や黄斑円孔、近年増加傾向にある加齢黄斑変性症の診断および手術適応決定に有用な器械です。現在当院にはありませんが硝子体手術前後の治療効果判定にも必要な器械ですので整備を検討したい機器の一つです。眼科手術機械の進歩も著しいものがあります。

白内障手術は現在3mm程度の切開創から器具を挿入して水晶体を吸引し、眼内レンズを折り曲げて挿入す

るとというのが一般的なスタイルになっています。今後はさらに切開創を小さくできるようになり将来的には調節力の回復(老眼の克服)も可能になるかもしれません。硝子体手術装置も安全性が向上しています。以前は硝子体手術にて頻繁に生じていた網膜剥離などの合併症の頻度が低下してきました。

当院にも最新の手術機械が整備されておりますので有効に活用していきたいと考えております。

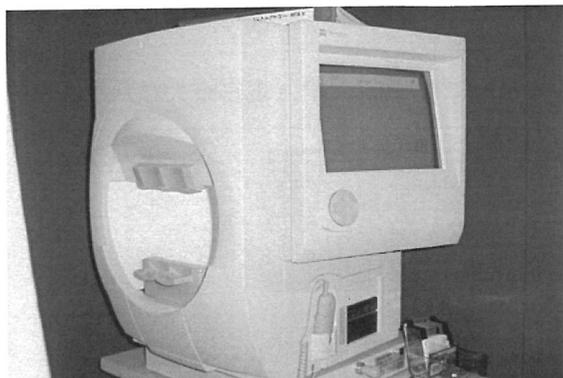


図1 ハンフリー自動視野計

患者様は左のあご台に顔をのせ、明かりが見えたらボタンを押します。

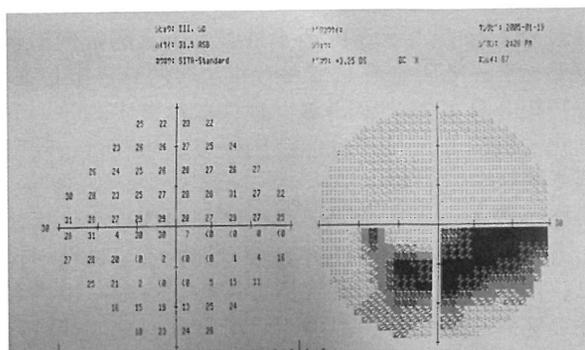


図2 緑内障の視野(自動視野計の検査結果)

図の左側は視野を数値化したもの。右側は色の濃淡で表示しています。下方の弓状暗点を認めます。

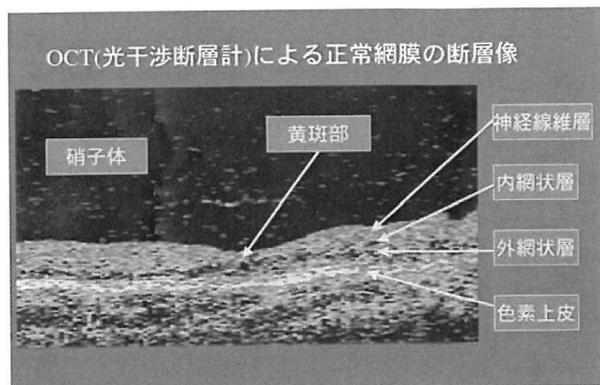


図3 OCTによる網膜像

網膜の浮腫、欠損、新生血管などの病変をとることが出来ます。

新任職員紹介



麻酔科

かわもと かず ひこ
川 本 和 彦

平成17年8月より麻酔科医として勤務しております川本和彦です。

熊本高校在学中はラグビー部に所属し全国大会（花園）に出場しました。

平成10年に宮崎医科大学（現宮崎大学）を卒業後、

宮崎医大麻酔科に入局し2年間、大学病院、県立宮崎病院で研修しました。その後熊本大学麻酔科に入局し、大学病院、出水市立病院（鹿児島）、熊本労災病院（八代）勤務を経て、この度、国立病院機構熊本医療センターでお世話になることになりました。

いままで麻酔全般にわたり経験して参りましたが、ここでさらに研鑽を積み安全かつスピーディな麻酔を志したいと思っております。まだまだ至らない点が多々あると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

最近は忙しく体を動かす時間が不足気味でラグビーはもうできませんが、シュノーケリング（海水魚採集）、山登り、硬式テニスが趣味です。同様の趣味をお持ちの方はぜひ声をおかけください。

研修レポート

総合医療センター

内科

今西 彩



はじめまして。平成17年4月より国立病院機構熊本医療センターで研修をしております今西彩と申します。平成19年3月まで2年間お世話になります。4、5月は消化器科、6、7月は血液内科で、現在は、呼吸器内科で研修中です。

研修が始まって2週間位は、病棟の仕事や、指示の出し方、検査の予約の仕方などに慣れるのに精一杯でした。消化器科では、肝疾患の患者様を多く担当し、重症の症例も経験し、治療だけでなく、家族への対応

などが非常に勉強になりました。血液内科では、化学療法や副作用・感染症に対する治療などを勉強しました。重症で入院生活が長い患者様が多いため、患者様本人だけでなく、御家族の方々の苦労や、それに対する医療者側の接し方をじかに感じる事ができました。

また、不明熱の患者様を担当したことで、症状や様々な検査所見から、診断までたどりつく過程を勉強できました。

現在、呼吸器内科で肺炎や肺がんの患者様を担当しています。肺がんの化学療法では、血液内科で勉強したことが少しですが役に立ち、ローテーションのよさを実感できました。呼吸器内科での残り1ヶ月、できるだけ多くの事を吸収していきたいと思っています。

当院は、病理解剖の件数が多く研修医は優先的に見学できるので、臨床症状や病態生理のつながりを知ることができ、大変勉強になっています。

まだまだ足りないところはたくさんあると思いますが、医師の先生方、看護師、薬剤師、技師の方々、ご指導よろしく願い致します。

総合医療センター

内科

緒方 さつき



平成17年4月よりこちらでお世話になっております1年目研修医の緒方さつきです。初期研修の2年間をお世話になります。

平成17年前期は内科3科を2ヶ月ごとにローテートしており、あっという間に、呼吸器科、血液内科の研修を終え最後の神経内科までできてしまいました。この4ヶ月間、指導医はじめ院内の様々な職種の方々にご指導頂き、はたまたご迷惑も随分とおかけし、ようやく病院と日々の生活に慣れてきたところです。ほとん

どが反省と後悔の毎日ですが、渡り廊下の窓から見える熊本城と時折り聴こえる藤崎台球場のサイレンの音に励まされながら、何とか頑張っています。

そもそも、高校生の頃、父が吐血して救急車で運ばれたのが、熊本医療センター（当時国立病院）との縁のはじまりでした。結局、父は十二指腸潰瘍でそのまま入院となったのですが、毎日学校帰りに寄っては絶食の父の隣でアイスを食べていたのを覚えています。実家から近いため、外病院の実習ではほとんどこちらを選んでいましたが、その時から、なんとなくマッチングもここに決まりそうな予感がしていました。

その予感が的中し、16人のよき仲間と、素晴らしい先輩医師、指導医の先生方、医療スタッフの方々にも恵まれました。未熟者で、あまり器用な方でもなく、体力だけが取り柄です。今後も多大なご迷惑をおかけすることと思っておりますが、ご指導のほどよろしく願い致します。

研修のご案内

第55回 特別講演 (無料)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成17年9月14日(水)19:00~21:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 熊本市医師会 藤澤 明詔

聖マリアンナ医科大学形成外科学教授 熊谷 憲夫

「再生医療の現状と展望」

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

第195回 初期治療講座 (会員制)

[日本医師会生涯教育講座5単位認定]

日時▶平成17年9月17日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「膠原病の診断と治療」

座長 玉名郡市医師会 紫藤 忠博

1. 検査について
2. 皮膚病変の診方
3. 関節病変の診方

国立病院機構熊本医療センター内科部長 清川 哲志

国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 萱島 研一

熊本託麻台病院院長代行 忽那 龍雄

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費20,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される方は1回会費5,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

第49回 三木会 (無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成17年9月22日(木)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 持続性インスリン単回投与が奏効した症例 植木町立国民健康保険植木病院内科 田淵 博孝、勇 聡
2. 高血圧、糖尿病、慢性腎不全を合併した閉塞性動脈硬化症に血管新生療法を施行した1例
国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科
大庭 圭介、新造 竜也、梶原 一郎、村上 和憲、宮尾 雄治、藤本 和輝
3. 2型糖尿病とメタボリック・シンドローム

国立病院機構熊本医療センター内科 小堀 祥三、市原ゆかり、児玉 章子、高橋 毅、東 輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表)内線796

第80回 月曜会 (無料)

(内科症例検討会)

[日本医師会生涯教育講座3単位認定]

日時▶平成17年9月26日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター総合医療センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例呈示「頭部MRIにてリング状造影効果を呈した脳幹部病変の1例」
国立病院機構熊本医療センター総合医療センター神経内科 澤山 浩
4. ミニレクチャー「ヘリコバクター・ピロリ感染の除菌とその問題点について」
国立病院機構熊本医療センター消化器病センター消化器科 押方 慎弥

日頃、ご疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501(代表)FAX 096-325-2519

第72回 救急症例検討会 (無料)

日時▶平成17年9月28日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

中毒(薬物、ガスなど)

国立病院機構熊本医療センター救命救急センター部長 高橋 毅

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線263 096-353-3515(直通)

平成17年 研修日程表 9月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

9月	研修ホール	会議室	その他
1日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
2日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
5日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
6日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
7日(水)	18:30~20:00 病薬連携研修会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
8日(木)	18:30~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 臨床化学月例会		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
9日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
10日(土)	14:00~16:00 第184回 滅菌消毒法講座《会員制》 「日本医療機能評価機構が求める感染制御」 東京医療保健大学医療情報学科感染制御学教授 大久保 憲 *第2種滅菌技士認定更新単位取得講座		
12日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
13日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
14日(水)	19:00~21:00 第55回 特別講演 「再生医療の現状と展望」 座長 熊本市医師会 藤澤 明昭 聖マリアンナ医科大学形成外科学教授 熊谷 憲夫	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
15日(木)		19:30~21:00 有病者歯科医療研究会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
16日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
17日(土)	15:00~18:00 第195回 初期治療講座《会員制》 座長 五名郡市医師会 紫藤 忠博 「膠原病の診断と治療」 1. 検査について 国立病院機構熊本医療センター内科部長 清川 哲志 2. 皮膚病変の診方 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 萱島 研一 3. 関節病変の診方 熊本託麻台病院院長代行 忽那 龍雄		
20日(火)	18:00~19:00 第26回 くすりの勉強会(公開)	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
21日(水)	18:00~19:30 第39回 国立病院機構熊本医療センタークリティカルパス研究会(公開)		17:00 消化器疾患カンファレンス C
22日(木)	19:00~20:30 第49回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
26日(月)	19:00~20:30 第80回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
27日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
28日(水)	18:30~20:00 第72回 救急症例検討会 「中毒(薬物、ガスなど)」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
29日(木)		19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
30日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)